D23

これからの減災研究実践 ― 京大防災研・減災社会プロジェクトのねらい ―
A New Perspective on Disaster Reduction Researches & Practices: An Overview of DPRI Disaster Reduction Research Project

○矢守克也・宮本　匠・近藤誠司
○Katsuya YAMORI, Takumi MIYAMOTO, Seiji KONDO

DPRI Disaster Reduction Research Program aims at constructing a new disaster research & practice paradigm, by which we can realize fruitful collaborations between disaster experts and non-experts. Having the coming huge disaster caused by a giant earthquake at Nankai Trough in mind, we are developing, (1) new disaster information system in which both experts' scientific knowledge and non-experts' local experiences are combined, (2) participatory research laboratory where both sides are interacting, and (3) education curriculums to train lay people to be disaster science communicators. Some concrete achievements in the 2012 academic year will be introduced.

１．はじめに

「減災社会プロジェクト」（正式名称：「巨大地震津波災害に備える次世代型防災・減災社会形成のための研究事業 ― 先端的防災研究と地域防災活動との相互参画型実践を通して ―」）は、南海トラフの巨大地震など近未来の巨大災害を念頭に、次世代型の減災社会を専門家と非専門家の協働を通して構築するための基盤的研究を、参画型防災データ・アーカイブスの構築（情報）、防災リサーチ・ラボの設立（場）、防災サイエンス・コミュニケータの養成（人材）の 3 点を軸に、2012 年度から 5 年間にわたって、推進しているものである。

２．研究内容

具体的には、第 1 に、「情報」の研究として、多様な専門家、非専門家が共同利用可能な「参画型防災データ・アーカイブス」を構築する。これは、例えば、津波災害に関する地域伝承などの非専門家による草の根の災害情報、専門家の災害調査報告などを、横断的かつ参画的にアーカイブするものである。この点については、本年度すでに、高知県四万十町興津地区をモデル地区として、住民の実際の避難訓練を撮影した動画と最新の津波浸水シミュレーションとを組み合わせた「動画カルテ」を開発した。また、三重県伊勢市でも、地域のローカルな気象情報を提供するための新しい情報端末を学校や地域社会に設置してその効果を検証中である。

第 2 に、「場」に関する研究では、専門家と非専門家との共同研究が可能な研究環境（「防災リサーチ・ラボ」）を創出するための研究を進めている。この点については、阿武山観測所を中心に、地震観測のための「満点計画」に小学校における防災教育を活用する取り組みを推進中である。

第 3 に、「人材」の研究としては、先端的な防災研究で使用される専門用語と、非専門家が草の根の地域防災で活用するローカル・ノレッジとを相互にコミュニケートさせるための「防災サイエンス・コミュニケータ」を養成する。この点についてもすでに、阿武山観測所において、観測所の訪問者に、観測機器や地震観測研究についてガイドすることができるコミュニケータ・スタッフを養成するためのトレーニングプログラムを開発し、すでに 10 名を超えるスタッフが活動中である

さらに、計 4 件の一般公募研究（所内公募）、および、アウトリーチプログラムの一環として、ラジオ番組「ぼうさい夢トーク」（NHK 大阪との共同事業）なども開始した。